



Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press - release

① 2月26日

ITUテレコムでICTによる経済の再生策を議論

ITU TELECOM Directors advocate ICT solutions for economic recovery

ITUテレコムワールド2009の注目点はグローバルリーダーズサミット

ITU TELECOM World 2009 will feature global leaders' summit

(出典：www.itu.int/newsroom/press_releases/2009/06.html)

2009年10月5～9日に、ジュネーブで開催されるITUテレコムワールド2009で、世界的な経済危機からの脱出策と、今後の投資、成長に向けたICTの活用策を議論するグローバルリーダーシップサミットが開かれることとなった。また、次回のITUテレコムワールドは、40周年記念として、2011年にジュネーブで開催することも決まった。先週、スペインのバルセロナで開かれたITUテレコムの評議員会で決まったもので、評議員には、Bharti Enterprises, ChinaMobile, CNBC Europe, GSMA Association, Hutchison Telecommunications, Novare Technologies, NTT DoCoMo, Orange UK, Orascom, QTel, the South African Development Bank, Swisscom, the Telecommunication Industry AssociationなどのチェアマンやCEOも入っている。国連事務総長の潘基文氏も、ITUテレコムワールド2009に参加を表明している。

② 3月2日

ITUの新しいICT発展度指数が154か国を比較

New ITU ICT Development Index compares 154 countries

北欧はICT発展度でトップ

Northern Europe tops ICT developments

(出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2009/07.html)

ITUの新しいICT発展度指数 (IDI) が、2002年から2007年の5年間154か国の情報通信技術 (ICT) の発展状況を比較した。このIDIは、ベンチマークのツールとして世界全体

の、また地域内の国レベルでも使用できる単一のツールとして11の指標を組み合わせている。それらは、ICTへのアクセス、ICTの利用、ICTの技能に関するものである。

IDIによると、ICTの最先進国は北欧の国々で、例外は韓国である。世界各国の順位は、上から順にスウェーデン、韓国、デンマーク、オランダ、アイスランド、ノルウェー、ルクセンブルグ、スイス、フィンランド、英国等となっている。

このIDIを紹介した報告書 (“Measuring the Information Society - The ICT Development Index”) は、5年間で固定通信から携帯電話へ明らかなシフトがあったことを述べている。2008年末までに世界の携帯電話加入数は固定電話のその3倍になり、2002年に途上国全体で半分以下だった携帯電話加入数は電話全体の3分の2になった。

ITUの予測によると、2008年末、世界中で人口100人当たり23人がインターネットを利用している。開発途上国を含む多くの国のIMT2000/3G携帯ネットワークの急速な普及を考えると、携帯ブロードバンドが潜在力を秘めているのは明らかである。

報告書は、世界のデジタル・ディバイドは2002年と2007年で変わらないことを述べている。そしてデジタル・ディバイドはなくなるが、わずかながら減少すると述べている。

また、同書は、国々を横断的にICTの価格を測定し比較する新しいツールとして “ITU ICT Price Basket” を提示している。このツールは、固定電話の平均コスト、携帯電話、インターネット・ブロードバンドを組み合わせ、ICTサービスの値段に基づき国々をランク付けしてサービスの値ごろ感を測定、比較している。2008年の各国の順位は、上から順に、シンガポール、米国、ルクセンブルク、デンマーク、香港、アラブ首長国連邦、台湾、スウェーデン、ノルウェーそしてフィンランド等となっている。

(本誌47頁「ITU-D 第7回電気通信/ICT指標に関する会合の結果の概要」を参照)